

目 次

〈言語の科学〉へのいざない	v
学習の手引き	ix
1 意味論の基礎	1
1.1 言語研究における意味論の役割	3
1.2 言語表現の意味と使用者の意味	4
1.3 語の意味関係	6
1.4 意義と指示	11
1.5 文の論理形式と量子子	13
1.6 確定記述	18
1.7 不透明な文脈	21
1.8 ラムダ演算子	24
1.9 伴立・前提・会話の含意	28
1.10 時と出来事の構造	31
第1章のまとめ	35
2 論理的アプローチ	37
2.1 言語と論理	39
2.2 モンタギュー意味論	40
(a) モンタギュー意味論の登場	40
(b) モンタギュー意味論の基本的考え	43
(c) Montague の英語の名詞句の分析	49
2.3 最近の形式意味論の展開	53
(a) Montague 以降の発展の概略	53
(b) モンタギュー意味論の基本的問題	56
2.4 状況意味論	61
(a) 言語の情報伝達機能と効率性	61

(b)	意味の関係理論	64
2.5	動的意思論	71
(a)	動的意思論の基本的考え	72
(b)	動的意思論とアップデート意思論	74
(c)	談話表示理論の最近の展開	81
	第2章のまとめ	82
3	認知的アプローチ	83
3.1	認知言語学の登場	85
3.2	認知言語学の特徴	87
(a)	認知プロセスの重視	87
(b)	言語能力の自律性, モジュール性の否定	87
(c)	プロトタイプの言語理論	88
(d)	非還元主義	88
3.3	カテゴリー	90
(a)	古典的カテゴリーの特徴	91
(b)	Wittgenstein と家族的類似	92
(c)	カテゴリー境界の不明瞭性	93
(d)	非客観的カテゴリー	93
(e)	プロトタイプ	95
(f)	プロトタイプ効果	96
(g)	カテゴリーの階層化と基本レベル	97
(h)	トートロジー	98
(i)	プロトタイプ意思論	100
(j)	フレーム意思論: カテゴリーと背景情報	101
(k)	カテゴリーの拡張: 多義, 放射状カテゴリー	102
3.4	メタファー: カテゴリー拡張と認知方略	104
(a)	メタファーの体系性	105
(b)	メタファーと視点	106
(c)	言語についてのメタファー: 導管メタファー	106
(d)	多領域メタファー理論	107
(e)	不変仮説: 「来る」と構造保持	109
3.5	ものと事件の概念化: 品詞と構文	111

(a) 品詞とプロトタイプ	111
(b) 非プロトタイプ, 超プロトタイプ	112
(c) 非プロトタイプの用法	113
(d) 事件のステレオタイプの概念化, 動詞の 意味分析と文法関係	114
(e) 融合, 複合動詞, 作用連鎖の拡大縮小	115
(f) 適用, 使役, 受身, 逆受身	117
(g) 精神活動, 所有関係	119
3.6 結 論	122
第3章のまとめ	123
4 意味と計算	125
4.1 自然言語処理における意味の取り扱い	127
(a) 格文法と格フレーム	127
(b) 概念依存	129
(c) 単一化文法	130
4.2 知識表現	137
(a) KL-ONE, Krypton	138
(b) ψ 項	140
(c) Frame Logic (F-Logic)	144
4.3 語彙意味論	147
(a) 語彙概念構造	150
(b) 生成語彙	157
4.4 意味表現と語彙知識獲得	165
第4章のまとめ	166
用語解説	169
読書案内	171
参考文献	177
索引	185